

▶ Casy Study: ワイジエイFX

仮想マシンと物理サーバの混在

Commvaultでバックアップ統合を実現するワイジエイFX

バックアップ データを1/10に削減、運用負荷も大幅に低減

将来的なDR/BCPも視野に入れ、情報システムの信頼性向上を目指す



業界
インターネットを介したFX取引 (外国為替証拠金) の
金融サービス

所在地
東京都港区

従業員数
150名

<http://www.yjfx.jp/>

課題

ワイジエイFXでは、システムごとに個別のバックアップ環境を構築しており、バックアップ環境を統合して最適化を図りたいと考えていました。

ソリューション

Commvaultで仮想マシンと物理マシンのバックアップを統合

メリット

- 仮想と物理を混在できるライセンス形態のCommvaultにより、ワイジエイFXは、ライセンスを効率よく組み合わせることで、コストを抑えてバックアップ環境の導入が可能に
- Commvaultの重複排除機能により、バックアップ処理は10分ほどで完了するようになり、従来の手法に比べて負荷を大幅に削減
- 仮想マシンやファイルの損失、ハードウェアの物理障害などが発生しても、リカバリが簡単にできるようになり、安心してシステムを運用が可能
- 統合的なデータ保護環境が構築され、個々のサーバやストレージで操作を行うことなく、バックアップやリストアを統合的に実施可能
- サーバの追加に伴う作業を単一のコンソールから一括して行えるようになり、バックアップ設定の作成から確認までの作業も15分程度で完了

インターネットを介したFX取引(外国為替証拠金)の金融サービスを提供しているYahooグループ傘下のワイジエイFXは、2013年度上半期にFX市場取引高「世界第3位」を達成し、スマートフォンアプリ「Cymo」で2014年11月に「ユーザー満足度No.1」を獲得するなど、高い評価を得ているFX取引事業者です。

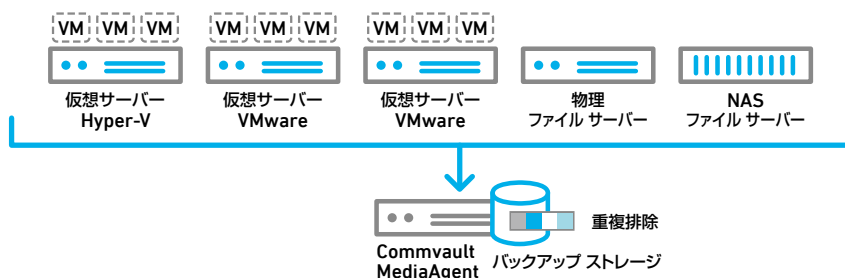
一般投資家だけでなく投資未経験のお客様にも「お金」や「投資」について関心を持っていただけるよう、ワクワクするような金融サービスと安心して利用できる取引環境の提供、それらの維持/向上に努めています。現在、経営ビジョン「ワクワク金融カンパニー」を掲げ、業界の常識や慣習にとらわれない組織体制を造り、FX業界のリーディングカンパニーを目指しています。

ワイジエイFXでは、取引サービス向けと社内業務向けの2種類の情報システムを活用しています。Commvaultは今回、認証サーバやワークフローサーバ、セキュリティサーバなどを含む社内向けシステムのバックアップ製品として導入されました。社内向けシステムは、システムごとに個別のバックアップ環境を構築していたため、次のような課題に直面していました。

- 仮想マシンのバックアップはストレージのスナップショット機能で同一の筐体内に取得していましたが、そのため、ストレージ筐体に障害が発生した場合には、システムを復旧することができませんでした。ストレージ障害時にも信頼性を担保できる仕組みの導入を検討していました。
- スナップショット機能でバックアップ運用をすると、機密情報を含む仮想マシンのバックアップデータが分散してしまうという問題が発生していました。企業の信頼性にかかわる機密データを含むバックアップデータは、集中管理できる環境を整えたいと考えていました。
- 社内ファイルサーバは、レプリケーション機能によってコピーを行っていました。コピーからファイル単位でリストアしようとする、手動で検索してデータを復元するという作業が必要になります。この作業は手間がかかるうえに世代管理を行えず、必要なファイルを復旧できないというトラブルもありました。適切なバックアップの仕組みを導入し、ファイルの世代管理を含めたデータ保護を効率的に実施する必要がありました。

これらの課題を解決する仕組みとして、アプリケーションや対象システムに依存しない包括的なバックアップソリューションが求められていました。そして、ワイジエイFXのシステム部門は、主要なバックアップ製品の中から、予算内で要件を満たすCommvaultを選択しました。

▶ Commvaultの統合データ保護ソリューションで問題を解決



仮想マシンと物理サーバを統合管理

従来、Hyper-VとVMware上で稼働する28台の仮想サーバと物理ハードウェアで構成される社内ファイルサーバのバックアップは、それぞれ個別に管理していました。Commvaultの導入によって統合的なデータ保護環境を構築したことで、これらのバックアップは専用ストレージへ保管されるようになりました。個々のサーバやストレージで操作を行うことなく、バックアップやリストアが集中管理で行えるようになったことにより、仮想マシンやファイルの損失、ハードウェアの物理障害などが発生しても、リカバリが簡単にできるようになり、安心してシステムを運用できるようになりました。

仮想と物理を混在できる購入しやすいライセンス

バックアップの対象となるシステムは、仮想マシンと物理サーバが混在しています。Commvaultは、仮想マシンの台数によるライセンスとバックアップ対象となるデータ容量によるライセンスとを組み合わせる購入することができます。ワイジェイFXでも、ライセンスを効率よく組み合わせることで、コストを抑えてバックアップ環境を導入することができました。

短時間で完了するバックアップ処理

Commvaultには、初回のみフルバックアップを取得し、それ以降の差分バックアップはフルバックアップへ自動的に合成する機能が搭載されています。この機能は単なる合成バックアップと異なり、重複排除後のユニークデータを利用し、データを移動せずに合成を実行できるという特徴があります。そのため、日々のバックアップで消費されるネットワーク帯域は小さく、短時間で処理を完了することができます。ワイジェイFXでも、バックアップ処理は10分ほどで完了するようになり、従来の手法に比べて負荷を大幅に削減できました。

データの重要度や更新頻度などに合わせたデータ保護を実現

ワイジェイFXでは、重要度や更新頻度によってデータの管理ポリシーを適用し、バックアップの取得頻度や世代管理数を定め、作業を行っています。以前は、ストレージ単位で作業を行うため、サービスレベル(SLA)の適用が複雑化していました。Commvaultの導入後は、サーバの追加に伴う作業を単一のコンソールから一括して行えるようになり、バックアップ設定の作成から確認までの作業も15分程度で完了します。日々のバックアップ状態についても、レポートメールによって通知される結果を確認するだけで済むようになりました。

▶ 今後の予定: 高い信頼性をサービス基盤へと拡張

今後、ワイジェイFXでは、Commvaultのバックアップ対象となる仮想マシンを拡大していく予定です。また、バックアップ対象を社内向けシステムだけでなく、取引サービス系システムにも拡張したいと考えています。

現在は、運用システムと同じサイト内にバックアップシステムを設置していますが、今後は、BCP(事業継続計画)の観点から遠隔地のDR(災害復旧)サイトやクラウドサービスを併用したいと考えています。Commvaultなら、クラウドとの親和性が非常に高いので、専用ハードウェアを用意することなくそのままクラウドの利用を開始できます。また、Commvaultの重複排除機能も、DRバックアップに非常に適しており、こうした観点からも最適な選択であったと確信しています。

信頼性の高いシステムを構築/運用することによって、さらにお客様が安心してFX取引を行えるサービス基盤へと強化していく予定です。豊富な機能を備え、拡張性にも優れたCommvaultは、統合バックアップ環境の基盤として今後もシステムの安定運用に貢献してくれるとワイジェイFXは期待しています。

▶ お客様の声

「統合的なバックアップシステムの構築により、信頼性の高いデータ保護 / 保管基盤と将来的な拡張に備えた下地が実現できました。また、Commvaultの重複排除機能によって、世代管理数の多い仮想マシンやファイルサーバのデータを最大10分の1に削減できました。バックアップ時間も想定より大幅に短縮でき、運用工数の削減に大きく貢献しています。」

ワイジェイFX 株式会社

システム部 リーダー

山浦 土師 萌 氏

末廣 圭一 氏

※ 所属・役職等はインタビュー当時のものとなります。

▶ ワイジェイFX株式会社

データ管理概要

- 物理ファイルサーバ x 2TB
- 仮想サーバ (Hyper-V、VMware) x 28台
- バックアップストレージ HP 3PAR x 1台

COMMVAULT



CommVault Systems Japan 株式会社

〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-7-1 有楽町イトシア12F

www.commvault.co.jp | PHONE: 03-6860-4617 | jpsales@commvault.com

▶ 保護、アクセス、法令順守、共有。